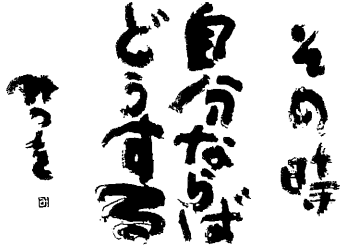


さくら第468号

平成31年3月

## さくら

発行所 さくらそろばん  
発行者 平瀬重雄  
春江町境 17-7:TEL51-1337  
hirase@mx2.fctv.ne.jp『<sup>むご</sup>惨い<sup>きょういく</sup>教育をさせると…』

1542年12月26日に三河の国(今の愛知県の東部)で生まれた徳川家康は幼名を「竹千代」といいます。戦国時代であり各地で戦が行われ、弱い国は強い国に助けを求め、人質として殿様は自分の子や家族を差し出していました。

1549年、竹千代は8歳の時に駿府(今の静岡市)の今川義元の人質となり、1560年の桶狭間の戦いで義元が織田信長に滅ぼされるまで過ごしていました。

12年間を人質として織田家や今川家で暮らしておりその時々<sup>そのとき</sup>の生活など苦しいことがあっても我慢する、忍耐力が養われたといえます。今でいう小学2年生から大学2年までを人質となっていました。その後、生まれた地である岡崎城にもどって名を徳川家康としました。

ところで、今川義元の城へつれてこられた時に殿様の義元は家来に「竹千代には惨い教育をさせろ」という命令しました。

家来たちは惨い教育の意味を次のように考えました。それは、毎日まいにち、来る日も来る日も、朝から夜まで、休む間もないほど武術のけいこで疲れさせ、そまつな食べ物ばかりをあたえ、しごきまくるという生活をさせました。

これを知った義元は家来たちを大変厳しく叱り飛ばしたといえます。

惨いという字の篇(へん)はリッシン篇であり心臓の象形文字といえます。旁(つくり)は、頭上にかがやく三星の象形文字であり、豊かでつややかな髪にかんざしを付けた女性の象形

文字といえます。

惨の意味には、そこなう、人の気持ちや身体<sup>からだ</sup>の調子を悪くするという意味。いじめる、虐待する。いたむ、痛ましい。目をそむけたくなるほどひどい、気の毒で見えていられないなど、よくないイメージばかりです。

さて、話を戻します。義元が家来を叱ったあと次のように言ったそうです。『人質の竹千代には、朝から晩まで、好きなごちそうを好きなだけ与えて、寝たいと言ったらすきなだけいくらでも寝させろ。夏は暑くないように、冬は寒くないようにしてやれ。勉強がいやだと言うならやらせるな。何事も好きかつてにさせろ』

そして最後に、こう言ったそうです。『そのようにすれば、たいいてい人間はだめになるから』

義元は、まだ若い竹千代の非凡な才能をみぬいており、いかにしてだめにするかを家来に告げたのです。

人を不幸にするには、その人のわがままを何でも聞いてやり、好きな時に好きなことだけやらせ、欲しい物を何でも与えてやればその人は不幸になることが分かります。

子どものころにぜいたくをしすぎないことや、がまんやしんぼうをさせる。自分の思いどおりにならないことがたくさんあることを経験する。勉強はスキキライかんけいなく取り組むことの大事さが分かります。

寒いから、暑いから、つらいだろう、かわいそうだと先回りして親がやってしまうと、やがて本当にかわいそうな子になってしまいます。

大事な子だからこそ自力で何事も乗り越える力を身につけることこそ必要です。

腹がへった人に魚を与えれば、その時は満足しますが、やがてまた腹がへれば、だれかにもらう事しか考えなくなります。これに対して、釣り針をあたえて魚の釣り方を教えれば、その人は腹がへれば自分で考えて魚を釣るようになります。目先のことだけに満足せず、どの方法がよいかを考えることが大切です。自力で出できれば喜びと自信が身につきます。